キャッチフレーズ「学校大好き！　輝くひとみいっぱい　栗原小学校」

栗原小だより

～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

新座市栗原１－５－１　☎042-473-7070
ＨＰ　http://www.c-niiza.ed.jp/e-kurihara/

令和４年度　９月号
令和４年８月３０日

「エビデンス」で捉える児童の姿

校長　大井　敏彰

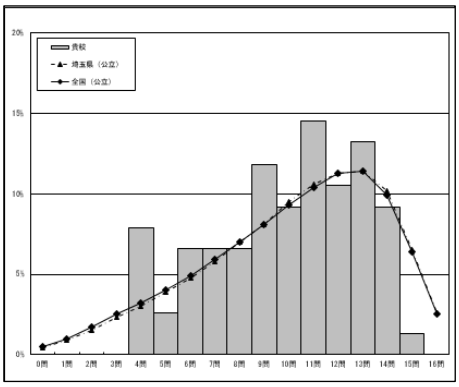
【２学期が始まりました！】

今年の夏は、最高気温３５℃を超える猛暑日とその合間の集中豪雨により、大変な気象状況が日本の各地で見られました。新型コロナウイルスも猛威を振るい、感染者数は県内で１００万人を超えました。およそ７人に１人が感染した計算になります。そのような中でも昨年とは異なり、行動規制のない夏休みでした。みなさんは夏休みを有意義に過ごせましたか。

本校では、７月２８・２９日に３年ぶりに林間学校を実施しました。５年生の子供たちは、榛名高原学校で初めての集団生活やカッター実習を体験し、１泊２日のプログラムをとおして、大きく成長して帰ってきました。栗原小の高学年として、２学期以降の活躍にとても期待しています。

さて、本日から２学期が始まりました。今学期は、来週実施予定の修学旅行を皮切りに、９月末のくりっ子まつり、１０月末の運動会、１１月末の音楽発表会など、学校行事が続きます。引き続き感染予防に努めながらも、日々の学習活動や学校行事をとおして、栗っ子一人一人の可能性を引き出すよう、教育活動を推進してまいります。

【全国学力学習状況調査の結果から】



４月に６年生が実施した標記調査の結果が、返ってきました。右のグラフは算数の正答数分布で、横軸が正答数、縦軸が割合です。棒グラフが本校児童で、折れ線グラフが全国・県平均です。このグラフを見て、私は嬉しい気持ちになりました。なぜだか分かりますか。

グラフの左下に着目してください。正答数０～３問、つまり正答数が少なかった児童の割合が０です。このグラフから読み取れることは、学力に個人差は見られるものの、無回答や適当に回答してしまう児童がいないといった状況が伺えます。国語、理科においても同様の傾向が見られました。つまり、「６年生には問題を投げ出すような児童がいない。」「一人一人が最後まで課題に取り組む」といった学年集団としての成果が見て取れたのです。

私は、この結果を根拠「＝エビデンス」として、『問題を諦めない６年生の「学びに向かう態度」や「全員で学びに向かう学年の風土」は、他の学年の模範となる素晴らしい姿である。』と捉えました。と同時に、昨年度まで、学校研究で取り組んできた「主体的に学ぶ児童の育成」の成果の一端が、児童の学力調査結果から垣間見えました。このため嬉しい気持ちになったのです。

ちなみに、算数の平均正答数は、全国や県の平均を下回っていました。（国語、理科は、全国や県の平均を上回っていました。素晴らしい！）このことは課題として捉え、キュビナ等を活用しながら、算数の学力向上に努めてまいります。

私は今回、成績や順位だけではなく、成果や態度が見て取れる根拠（＝エビデンス）に着目し、子供たちにフィードバックすることの大切さに気付きました。その根拠（＝エビデンス）から見える姿から、栗っ子一人一人の「学力向上の基盤となる学びに向かう態度」を育んでいきたいと思います。保護者の皆様には、２学期も本校の教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

☆９月２１日（水）、給食後に下校し、オンライン授業を行います。詳細は学年だよりをご参照ください。各ご家庭では、接続等ご協力をお願いします。

※６月１日配付「お知らせ」参照

栗原小学校のホームページで学校生活の様子がご覧いただけます。（スマホでもOKです。）